

オールインワン通信

 2021
VOL. 2

犬糸状虫症の感染源

かつては犬においてかなり高い感染率だった犬糸状虫も近年の予防薬の普及により感染率は減少し過去の感染症と認識されがちですが、現在も尚、国内で散見されている感染症です。動物病院に来院する犬の多くが犬糸状虫症予防薬の投与を行っているため、それらの犬における感染率では実際の犬糸状虫の分布や感染リスクを正確に判断することは困難です。犬糸状虫の感染源として考慮すべきなのは予防薬を投与していない犬ですが、全国の保護犬の頭数推移を図に示します。これらの予防薬を投与していない保護犬の犬糸状虫寄生状況調査について神奈川県と東京都の報告をご紹介します(表)。犬糸状虫寄生陽性率は20年前と比較し減少はしていますが、近年の陽性率は20%を超えています。この調査

より、首都圏であっても飼育環境によって犬糸状虫の寄生状況は大きく異なり、保護犬においては4頭に1頭という高い割合で犬糸状虫成虫が寄生していることが報告されました。

犬糸状虫症は媒介能力のある蚊が存在し、保有宿主(感染犬)と感染に好適な気候条件が備わっていればどこでも感染が可能となります。ご紹介した保護犬の調査から、今も尚、犬と蚊の間ではライフサイクルが維持されていること、またイヌ科の野生動物タヌキの犬糸状虫寄生陽性率は数%程度といわれていますがミクロフィラリアの産出は示唆されており、野生動物が感染源になる可能性も完全に否定できないこと、さらに地球温暖化現象により犬糸状虫媒介蚊の生息域が広がっていること、これらのことから都市部であっても犬糸状虫感染リスクは高く、感染可能な地域の拡大と期間が延長しているといえます。

室内飼いの犬や猫が増えていますが、蚊は散歩やアウトドアなどの外出、ドアや窓の開け閉め、エレベーターにより高層階へも運ばれるなど刺される機会は日常生活の中で多く見受けられます。犬糸状虫について理解し、ベクターである蚊の分布状況や感染源について考慮し、予防の重要性を飼い主へ伝えていくことが動物福祉のさらなる向上となるでしょう。

表

保護犬における犬糸状虫成虫抗原検査陽性率

| 調査地 | 陽性率 | 検査頭数 | 調査年 |
|------|-------|------|------------|
| 神奈川県 | 22.7% | 44頭 | 2012~2013年 |
| 東京都 | 46.0% | 100頭 | 1999~2001年 |
| | 23.0% | 100頭 | 2009~2011年 |

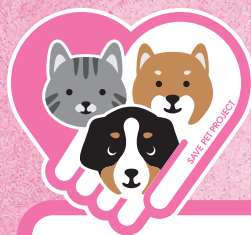
図

犬の引き取り状況の推移



出典:「犬・猫の引取り及び負傷動物等の収容並びに処分の状況」(環境省) https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/statistics/dog-cat.html

参考:「神奈川県の保護犬および来院犬における犬糸状虫寄生状況について」JCVIM, 2014, 「犬・猫を終宿主とする人獣共通寄生虫症の疫学に関する研究」大井 誠明, 2015
「犬糸状虫症は過去の病気となったのか」Small Animal Clinic No.176, 「蚊から考える犬フィラリア症予防の重要性」Small Animal Clinic No.195



オールインワン通信

2021
VOL. 2

■ セーブペットプロジェクト ■

「あなたのアクションで、救える命がある。」

愛犬・愛猫への寄生虫対策が、保護犬・保護猫のしあわせにつながります。

犬猫の保護・譲渡などの動物愛護活動に取り組む「一般社団法人はーとinはーとZR」(東京都港区)の代表理事・池上奈穂さんにお話を伺いました。

今から10年程前、SNSで犬の殺処分の投稿を見たことがきっかけで保護犬の一時預かりボランティアを始めた池上さん。多頭飼育崩壊の現場に立ち会い、3頭の犬を引き取った出来事を機に本格的な保護活動に乗り出し、「譲渡だけでなく啓発も行わないと良い社会にならない。教科書に載るような活動を目指して、小学校で命の教室もやろう!」と2016年に「一般社団法人はーとinはーとZR」を立ち上げました。

コロナ禍においても対面が必要となる保護・譲渡といったオンラインでは完結できない活動を行う中、犬猫だけでなく、飼い主様にも幸せになってもらいたいと願い活動を続ける原動力は「守りたい命への責任感です」と熱く語っていただきました。

昨年度、犬は186頭、猫は24頭保護したのですが、そのうち128頭の医療費はセーブペットプロジェクトの寄付金を使わせていただきました。本当に助かっています。



犬猫たちは譲渡後に表情が変わるそう。「飼い主様からも『本当に幸せ』というお言葉を頂き、良かったと思います。やっぱりこの活動はやめられませんね。」

あなたのアクションで、救える命がある。



SAVE PET PROJECT

「セーブペットプロジェクト」は、動物病院で処方されるベリンガーインゲルハイム アニマルヘルス ジャパンのノミ・マダニ駆除剤、犬・猫用オールインワン*寄生虫駆除剤、フィラリア症予防薬、そして犬用デンタルガム「オーラペット」の売り上げの一部を、マイクロチップ普及や新しい家族を探す犬や猫たちのための医療費支援などに役立てる動物愛護活動です。寄生虫対策やデンタルケアをすることで、自分のペットだけでなく、行き場をなくした保護犬・保護猫たちにもあなたの愛情を届けることができます。

活動の詳細は動画でご紹介しています。ぜひご覧ください。

*フィラリア症予防、ノミ・マダニ駆除、複数のお腹の虫の対策を1剤で対応



新しい活動紹介ムービーが
できました!

セーブペット

検索

